

# 放

課後、子どもたちは「ただいま！」と学童保育に帰ってきます。「おかえり～」と迎える指導員。そして子どもたちは、仲間や指導員と遊んだり、宿題をしたり、読書をしたり、団らんを楽しんだり、一緒におやつを食べるなどして過ごします。体調が悪いときには静養します。みんなで近くの公園に遊びに行ったり、一日保育の日には昼食づくりをしたりする学童保育もあります。また、身のまわりの整理整頓、衣服の調整、清潔の維持、休息などの基本的な生活に属すること、係・当番活動、行事の取り組みなど、生活全般に関わるさまざまなことを行っています。



私たちは、子ども・保護者と指導員が共に行う「子ども一人ひとりと、子どもたちの生活内容を豊かにするための継続的な営み」を、「生活づくり」と呼んで大切にしてきました。全国学童保育連絡協議会主催の「全国学童保育研究集会」（以下、全国研）でも、生活づくりに関わる分科会を複数設けて、全国各地の学童保育関係者が共に学びを深めています（第59回全国研は、2024年秋に岡山県での開催を予定しています）。

2020年春以降、「新型コロナウイルス感染症」拡大の影響により、社会活動全体がさまざまな変化を余儀なくされました。学童保育においても、日々の生活内容、保護者会・父母会の開催方法や内容など、さまざまな影響を受けましたが、そのなかでも、「安心して楽しく過ごせる、いつもの学童保育での生活」を守ろうと、子ども・保護者・指導員が折々に力をあわせてきました。

社会全体が少しずつおちつきを取り戻しつつあるいま、「子どもたちの『やってみたい!』」を気兼ねなく一緒に実現できる日々をあらためてかみしめている」「指導員と保護者が直接顔をあわせて、存分に子どもの様子を伝えあえることがうれしい」「保護者会の行事を再開し、楽しい時間を過ごしました！」などの声が編集部

に寄せられてきています。

今回の特集では、コロナ禍での学童保育の生活づくりのなかで感じてきたこと、気づいたこともふまえて、これまで私たちが大切にしてきた、子ども・保護者・指導員が共に行う学童保育の「生活づくり」について、あらためてたしかめあいます。（編集部）

